

令和7年度第4回清瀬市社会教育委員の会議 議事録

令和7年度第4回清瀬市社会教育委員の会議が令和7年11月10日に開催された。
出席委員、議事の大要は次のとおり。

日 時 令和7年11月10日（月）午前10時から12時00分まで

開催場所 清瀬市役所本庁舎 2階 会議室2-3（対面開催）

出席委員 (対面参加)

倉持議長、松山委員、西田委員、渋谷委員、玉置委員

(オンライン参加)

大野委員

欠席委員 永嶋委員

事務局 生涯学習スポーツ課 古川副参事、西原係長、成田

次第1 開会

事務局より

- ・開催方法の確認（対面開催、大野委員はオンラインで参加、永嶋委員は欠席）
- ・資料の確認

2 議長・副議長選出

3 議題

- (1) 清瀬市不登校支援ネットワーク・フォーラムについて
・不登校支援のネットワークづくりについて（提言）

- (2) 清瀬市生涯学習基本方針の更新について

- (3) 令和7年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会表彰候補者の推薦について

4 報告等

- (1) 令和7年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第4ブロック研修会について

5 閉会

(倉持議長)

令和7年度第4回清瀬市社会教育委員の会議を始める。
まずは新任の大野委員より挨拶をお願いし、その後事務局より一言お願いしたい。

(大野委員)

先ほどご紹介がありました通り、中学生の時に初めて坂田教育長にお会いし、その後ご縁をいただき、この度学生から社会人になるにあたり、これまでの自身の取組みや経験などを踏まえ、微力ながら清瀬市の生涯学習活動の振興と発展に力添えしたいと思っている。よろしくお願ひする。

(事務局)

本日永嶋委員は大学の授業があり欠席となる。

この度、社会教育委員の改選があった。齊藤副議長が退任され、新たに大野委員が委員の委嘱を受けた。このメンバーで任期の2年間を務める。

本日は第1回目の会議ということで、議長・副議長の選出を互選でお願いしたいが、議長については皆様からの推薦もあり、引き続き倉持委員にお引き受けいただいた。

ここからの進行は倉持議長にお願いする。

(倉持議長)

副議長については、前副議長の齊藤委員が今回辞任されたということで、皆様より自薦他薦での推薦をお願いしたい。個人的にはやはり、地元の団体から選出いただいている西田委員が地域のことを一番よくお分かりになる方だと思っているが、副議長としていかがか。もちろん色々な活動をされてお忙しいとは重々承知しているのだが。

(西田委員)

承知した。お引き受けする。

(倉持議長)

これにて議長・副議長が選出されたので、今期はこの体制で進めていきたいと思う。皆さんよろしくお願ひする。

それでは議題に入る。議題1の清瀬市不登校支援ネットワーク・フォーラムについて、不登校支援のネットワークづくりの提言だが、前期は不登校支援ネットワークづくりに取り組んできたので、皆さんのご意見をいただいて、前期の任期のまとめとして、たたき台を作った。それを皆さんにメールでお送りし、西田委員と永嶋委員からご意見をいただいたので少し修正をした。

内容としては、まず、大きく分けて2部構成にしていることは変わっていない。1部が多様な不登校支援、居場所づくりの充実ということで、まずは不登校支援や子供の居場所づくりとして、その活動の場や機会などを色々なところに増やす支援をする。また、それを担う人も増やすという内容を追加している。

2番目は、不登校支援ネットワーク・フォーラムの継続実施ということで、そういうふた不登校支援や居場所づくりに関わる人たちが繋がり、交流して情報交換をする場や、学

びの場を継続して欲しいということで、この大きな二本立ては変わっていない。

1番目が少し増えているのは、西田委員からいただいたご意見も踏まえ、フォーラムをやってみて分かったのだが、地域差があるということ。清瀬の南側には割と多くの支援の場所があり、活動が活発なのだが、北側はまだそれほど多くないという地域差があるので、やはりその場や機会を色々と増やすということと、それに関わる人々の繋がりも広げる。そのようなことを少し後半に書き足した。

また、先ほど教育長からも話があったが、市長部局でも今、子供の居場所づくりなど、そのようなものが色々と取り組まれている。社会教育施設や高齢者施設、福祉施設などでも取り組んでいくのが良いのではないかという永嶋委員からのご意見をいただいたので、今ある別の目的のアクセスを活用するということを書き足した。

また、「子供の居場所づくりの取り組みは、多様な世代や属性の方々と共に取り組むことによって」というこの段落については、永嶋委員から今期は特に不登校支援のネットワークづくりに取り組んできたが、子供の居場所づくりや不登校支援というのは、高齢者や障害者、外国人など、多様な方たちが共に関わることで、一緒に交流したり居場所を作ったりしていくことなのではないか、というとても大事なご指摘をいただいた。社会教育という観点で、そのようなところもきちんと入れた方が良いというご意見をいただいた。色々な人に関わったり子供の居場所に関わったりすることによって、色々な人たちが地域や社会に関わる機会にもなるので、そういった人材育成にも取り組んでほしいということも書き足した。

2番目はあまり変えておらず、今後も不登校支援ネットワーク・フォーラムの開催を続け、交流の場づくりを継続していただきたいという内容で添付資料を付けた。

教育委員会、教育長と教育委員、教育関係者、行政の関係者にこの提言を出すので、社会教育委員の会議で毎回議題として話し合い、情報収集をしながら更新し、市内で色々と活動をしている団体やその内容を部外秘としてこの資料にまとめた。

また、昨年度の第4ブロック研修会が不登校支援ネットワーク・フォーラムの試行的なものだったので、第4ブロック研修会と都市社連協の活動報告を添付資料として付け、今年度開催した不登校支援ネットワーク・フォーラムのチラシと報告書、アンケートの集計結果も添付して、まとめてお出ししようと思っている。ここをもう少し直した方が良い、ここが間違っているなど、そのようなことがあればご指摘いただきたい。

その他事務局から何か補足等はあるか。

(事務局)

今ご確認いただき、問題がなければ教育長にお渡しできればと思っている。

補足だが、次回の会議は12月25日を予定している。会議の後に毎年恒例の教育委員との懇談会があるが、今回この席では、この不登校支援のネットワークづくりの提言を基としたご報告を伺いたいと教育長より承っている。来月も引き続き、この件は議題としてあることをご承知おきいただきたい。

それでは、これから教育長をお呼びしたいと思う。

— 議長から教育長へ提言書提出 —

(倉持議長)

これで終わったような、次が始まったような、そのような思いだ。昨年度は4ブロック研修会を開催し、今年度は夏の暑い時期だったが、不登校支援ネットワーク・フォーラムを開催した。色々な方に集まつていただき、やってみて良かったと思う。学校教育関係者やNPO、ボランタリーな方や個人で活動をされている方も含めて、色々な属性の方がいて、とても熱量を感じた。子供の居場所づくりに関する意欲を少し広げていけると良い。それでは、この議題1は以上とする。

大野委員、少し資料が多いと思うが、まずは見ていただきたい。12月の会議の後に教育委員との懇談会があるので、こちらについてもまた話題になる。若い世代に一番近いお立場だと思うので、色々と実感などがあるかと思うが、その時にまた何かご意見をいただければと思う。

それでは議題2、清瀬市生涯学習基本方針の更新について事務局より説明をお願いする。

(事務局)

今年度の議題の1つとして、清瀬市生涯学習基本方針がある。この基本方針の期間が今年度末までということで、それを次期の計画に合わせて更新をしていく必要があり、既に皆様に議論していただいている。

現在清瀬市では、第5次清瀬市長期総合計画があり、こちらが令和8年から17年度までの10年間の計画となっている。それと並行して、第3次清瀬市教育総合計画マスター プランがあり、同じ期間の中で策定が進んでいる。

長期総合計画には倉持議長が、教育マスター プランには松山委員が社会教育委員としてご出席いただいている。

こちらの関連計画との整合性を見つつ、生涯学習基本方針を今の社会情勢や清瀬市のことから生涯学習の方針に合わせて考えていく。

年度当初の計画の流れだと、本来なら今日の会議で答申案をお示しする予定だったのだが、少々遅れている。今日はこの基本方針のどの部分を変更していくのかを確認させていただき、次回の会議である程度形としてお示しできればと思っている。

同時に、次回の会議の時までには市の長期総合計画や教育委員会のマスター プランもだいぶ形になってくると思われるで、それと照らし合わせながら基本方針の部分を更新していく作業と、整合性を取っていく必要がある。

現行の方針だが、まず1ページ目の「生涯学習基本方針の概要」の基本方針の目的だが、こちらが当時の情勢に沿った内容になっており、前回も、もうSociety5.0は古いというような話も出ていたかと思う。改めて今の情勢に合わせたものに書き換えを行いたいと考えている。

続いて2ページ目の、「生涯学習の意義と必要性」だが、基本的なところは変わらないと思うが、倉持議長と少し話をしたところ、社会教育の概念が、もうこの時とは変わりつつある。この概念は改めて整理をする必要がある。

続いて、議題3の3ページ目、③の「市の関連計画との関係」だが、こちらは第5次長期総合計画、第3次教育マスター プランに合わせて更新をさせていただく。

それに伴い、④番の基本方針の期間だが、こちらは長期総合計画とマスター プランの終わりに合わせる形で今回の方針を定めていたところがあり、スタートは令和8年となる。終わりに合わせるのかどうするのか、といったところについて、事務局としては長期総合計画とマスター プランの終わりに合わせるのが適切だと思っているが、皆様からご意見を

伺いたい。

まず、この生涯学習基本方針の概要のところで、ご意見やご質問等があればお受けしたい。また基本方針の期間は5年となっていたのだが、それを長期総合計画と教育マスター プランに合わせて10年で良いかどうかについても、併せてご意見を伺いたいが、いかが か。

(倉持議長)

10年はかなり長いので、状況の変化などに対応するには5年の方が良いのかも知れな いが、教育なので、他の総合計画も10年ということもあり、長い目線で計画の柱を立てる という意味では長い方が良い、というそれぞれメリット・デメリットがある。今回の提 案では10年の方が良いのではないかと思う。長期総合計画や教育総合計画と連動性があ る方が、より位置付けをしやすいという気がするが、いかがか。

(事務局)

具体的な取り組みや事業については、長期総合計画も教育マスター プランも、その下に 実行計画を策定して取り組んでいる。実行計画については、都度ローリングをしていくこ とになっている。

(渋谷委員)

骨子は10年で、必要に応じて少しづつ、具体的な事が変わってくるということか。

(事務局)

お見込みのとおり。例えば当課で今年度から「児童生徒国内派遣事業」が始まったが、 教育マスター プランにある方向性の中の「生きる力考える力を高め、伝えるための世代を 超えた学びの場の提供」に新たに位置付けている。新たに始まる事業については、その方 向性に沿ったものを検討し、整合性があるかどうかをきちんとチェックした上で紐づけを 行っている。

(倉持議長)

事業に関しては、話をここに全部載せる必要があるものではないが、目標や方向性など はこの計画の中で示す。それを10年間継続するものとして入れている。

3ページまでのところで、他に何かご意見はあるか。この2ページの図については今、 中央教育審議会で示されている図だ。それを取り入れるかどうかは別として、少し変わっ てきている。まずはそれを見た上で、清瀬はどうするか決めなければいけない。

(松山委員)

「②生涯学習の意義」として、振興計画の委員をさせていただいているのだが、まだ議 論としてそれほど煮詰まっているわけではないが、少し話が出ていたのが、子供たちの学 校教育の部分も、結局コミュニティやその地域がしっかりとあるということがとても大 事なことであるという話で、それにおいては生涯学習のようなものが地域への入口やきっか けになっていく、地域を知って繋がりができる、自分は何かやってみたいというようになり、 それが例えば、子供たちの支援や子供たちに向けた活動に繋がることもあり、何かそのよ

うに連動し繋がっていく部分というのは、生涯学習の意義の部分では、地域課題を解決していくなどと書いてあるが、学校教育や社会教育など色々な文化活動などが繋がっているのだということがあまり書かれていないと思う。

生涯学習の定義もある、その生涯にわたってという時間軸の定義でも、縦の主軸と横の軸という水平的な統合と言うが、Integrated、その一つ一つの色々な場所の統合という意味合いも、生涯教育では当初から非常に大事だと言われていることだと思う。単に生涯学習時間の軸で、色々な機会があるというだけではなく、空間的に色々ある機会が圧倒的にあり、もちろん全部が一緒だということではなく、連動して繋がっているということ。一つの学びがそういった教育であったり、その他の地域的な課題の解決にも結びついたりする。そして、それをやる場所はまた別の学習の機会にも広がり、繋がって連動していくというイメージがもう少し出せるのではないかと思った。

水平的な統合という本来生涯教育の意味も含まれている空間の色々な繋がり、期間や機会の繋がりということをもう少し入れても良いのではないか。

不登校支援においてもネットワークや繋がりなど、そういったことを大事にしていると思うので、だからこそ生涯学習の意義においても、もう少しその部分を強調しても良いのではないかと思った。

また、この図だが、生涯学習の図ではあるがこれが基本的には地域コミュニティの中で行われているというような意味を持たせるとしたら、何か大枠で地域があっても良いのではないかと思うが、いかがか。地域のコミュニティの中で、色々な学習機会や教育の場面、個人の学習や集団の学習など色々あるということが分かりやすい図になるのなら、地域というものがあっても良のではないかと感じた。その中に学校もあり家庭もあり、また色々な社会のコミュニティや小さなコミュニティ、学習の機会などもあると思った。この図を見たときに、何だろうと思うかも知れない。もう少し意味を持たせても良いのではないか。

(倉持議長)

確かにその辺はアップデートしていかなければならない。他の自治体などはここに、生涯学習の定義というか、この計画の範囲を示す自治体もあって、そうすると生涯学習の概念はこうだけれど、この計画の行政が関わる事業に関してはここですといったような出し方をするところもある。生涯学習全部に関与するわけではないという意味だが、市民の自主的な活動まで行政が口を出すのかということで、センシティブな自治体や地域もあるので、そのようなところなどは逆に、ここまで自主的な活動は、行政がどのようなスタンスでサポートするのかということを明確にするというところもあるような気がする。

また、こここのところでいうとウェルビーイングが出てきたという考え方のもとに、教育の領域だけではなく、先ほど松山委員がおっしゃっていたが、地域づくりや一人一人ということの部分に焦点を当てて整理するという書き方をしている自治体もある。どの辺をここで説明しようとするかというところによって、地域コミュニティとの関係で整理するという考え方など、先ほどのアイディアも良いと思う。この他に何かご意見がある方はいらっしゃるか。

それでは、上位計画もあるので前半はまた少し検討する。その他に基本目標や基本方針などか。

(事務局)

教育マスタープランの基本理念「子供が育つ市民が育つまちも育つ清瀬の教育」というものがあり、今のマスタープランから引き継いで、次もこれに据えたいという話で進んでいる。そこから生涯学習基本方針ではどのような基本目標にしていくかというような流れになると思う。マスタープランと長期総合計画もそうだが、これにあたり生涯学習分野の施策の柱というのが、生涯学習・文化芸術・スポーツの支援ということで立てられている。その中で「全世代の市民一人一人が生涯にわたり学びや文化芸術スポーツに親しみ、心身の健康と豊かな人生の実現を目指します」「多様な学びや体験を通じて地域への参画や交流を促し、支え合いのコミュニティの形成と地域の活力向上を推進します」という方向性で、生涯学習・文化芸術・スポーツを位置付けていきたいと考えている。今までの生涯学習の考えから更に一步進んだ形で、学びやスポーツ、芸術文化に親しむのはもちろんだが、そこで得た学びやスキル、知識などを自分のためだけではなく、周りの方や地域の中などで生かし合うというコミュニティが生まれていけば良いというようなことを謳っている。コミュニティを作るところまでを全部行政が面倒を見るのは難しい。親しむための機会を提供したり、活動をしたいという方々のサポートをしたりして促していくことが、行政の役割ではないかと事務局としては考えている。

(倉持議長)

そのようなことなので、基本目標も少し見直し変えなければいけない。今はこの「学びと育ちを活かす循環型社会の実現」だが、これはその前の教育マスタープランが「学びと育ちの循環型社会の実現」なので、その間に「活かす」を入れてというものだったようだが、今期は少し新しい長期総合計画と、教育の方の総合計画マスタープランを見ながら、生涯学習の方の目標を何に据えるか示さなければならない。次の会議には両方が何となく見えているはずなので、それぞれの該当ページの資料を用意していただき、それを見ながらどういう目標が良いかを具体的に練っていく。

今日の時点でのこのような要素があった方が良いというのがあればご意見をいただきたい。基本目標は割と大きめで、こちらも循環型社会の実現と書いてある。生涯学習のどの部分のコンセプトに力を入れてどのようなことを目指し、どのような社会を目指すかというような強い感じになっている。「学んだことを活かす」と当たり前のようを使うと、時々何か学んだことを活かさなければいけないのかと感じ、そんなことを行政に命令されたくないという思いがある。別にそのために学んでいるわけではない。学ぶことそのものが楽しいなど、自分のために学ぶということが当然あって、結果として活かされてたり、結果として何かのためになったりすれば、もちろんそれが素敵だ。その辺りをグラデーションのどの辺りに焦点を当てて言葉を定めるかということも考える必要がある。

(松山委員)

今お話を伺い、私の先ほどの意見について、もしかしたらそうとられるだろうなと思った。確かに統合というと、あらかじめ動員の意図があり、それに沿うようなテーマを学び、そこから実践や課題解決に結びついていかなければいけないということを受け取られそうな感じもするが、それは少し自分としては不本意だ。イメージとしては、例えば、子供は学校の中で学び、授業などで色々な事を知り、面白いなと思ったことを知るために図書館に行くと、それに関する専門書がきちんと置いてあり、更に学ぶことができるという、そのようなイメージを持っている。

繋がっているというのは、図書館のような、そのようなもっと知ることができる知識が保障されていないと、学校の外に出た学びは実現せず、大人に関しても、自分が興味関心を持ったことが更に学べ、深めていけるような機会というのが図書館に限らず博物館なども含めてあるということ。要は学習が連動して繋がり、更に発展していくという、そのような空間的な繋がりというイメージもあったので、何か言葉として活かせると良いと思った。ただ学習機会がどんどん独立してあるというよりは、発展的に繋がっていくようなイメージを持っていた。それなので、おっしゃるご指摘は非常によく分かった。

(渋谷委員)

多分、この「活かす」のこの漢字が違うのだと思う。今あるもの、学んだことを活用して社会に行くというよりも、松山委員の話を伺うと、もっと学びたいとか学べる場があるということは、生きる方の「生かす」で成長や育むという意味がある。循環型社会が人の学びと育ちを手助けしていきますという意味合いがあるから、よく学校では「活かす」の記述は使わないで、「生きる」の漢字を使う。活用の意味も「生きる」には含まれているから、どちらかというと、循環型社会が一人一人の学びと育ちを育てていきますという意味であれば、今は「生きる」の漢字を使った方が、そのような意味合いもあると汲み取れるのかと思う。活用だと、既に持っているものを活用するしかない。活用できたから良かったで終わり、その先には進まない。社会が学びを育てていくというような、松山委員の話の意味を思うと、そのような事かと思う。

(西田委員)

この循環型社会の説明のところで「個人の生活も同時に豊かなものにしていく社会」とあるが、本来はこの「個人の心の豊かさ」などが一番大事というか、どう生かそうが本人が心豊かに生活することができるということが一番の望みなのではないかと思う。何かこのおまけのようになっているところが、もう少し優先しても良いのではないかと思う。

一人一人の個人の生活や人生などを豊かにする、ということがあつて地域ができるのではないかと思うので、ベースとしてはまずはここからだと思っている。

(倉持議長)

そのような方たちが増えてくると、地域も元気で明るくなるなど、何かみんなで参画活動をやろうとなり、健康的で明るい方たちが増えると、何かそこで繋がりができる、それを今度発表しよう、皆でご説明しようなどとなるかも知れないから、その入口がとても大事だと思う。言葉一つ取っても与える印象が全然違う。

(西田委員)

色々な人をたくさん見ている中で思うことは、やはり心の健康度が上がらないと外にも出て行く気にならない。家にいても良いけれど、何かその人が少しでも豊かに思える時間や、そのような場所や情報の提供などがあれば良いと思う。

(倉持議長)

学習の場や機会を増やす、提供するというのは従来のやってきたスタイルだと思うが、それ自体を増やさなければいけないというよりは、そのような情報を適切に伝えることや、

今まで届いていなかった方々にも届ける、そのような方々が出てこられるような環境整備をし、繋げて連動させていくなど、そこから広げていけるようにするというその展開が必要。そのような支援がこれから求められると思う。

行政がやっている講座や企画以外にも、市民の自主的な活動やN P O、ボランティア団体など、やっている場はたくさんあるから、そのような場に繋いでいく、そのような場に踏み出してもらう、情報を届けるなど、そのようなことができると良い。そちらに少しシフトしていくこともあるかも知れない。

(事務局)

現在、生涯学習センターやけやきホール、地域市民センターなど、各指定管理者に運営や事業を委託している。それぞれが工夫をし、生涯学習の機会として多様なコンテンツを市民に提供している。今ここで示されている方向性に沿って考えていくと、そのコンテンツだけを受講してそれで良かった、これについて分かった、などというところで終わってしまうパターンが多いと感じている。まだ生涯学習の機会をあまり持っていない方々に情報や機会を届けることが重要である一方で、このような機会の場に日々参加されている方で、更に自分たちの生活を豊かにするために、経験したことを基に共通する趣味や、更に何かやってみたいという方々が集まって、そこで何か新しい活動を展開してもらえたると思っている。

(倉持議長)

その学んだことをきっかけに、自主的な活動を継続的に繋いでいったり、取りまとめ側に段々とシフトしたりなど、そのように展開していくと良いと思う。

(事務局)

例えばこのような事例がある。当課で開催していた陶芸教室があったのだが、まず当課で企画をし、先生に頼んで生徒を集めて運営をしていた。定期的に当課主催で展示会を長年続けていたが、いつまでも行政に頼り切りでは発展しないということで、徐々にフェードアウトしていき、今は完全に先生と生徒とでその陶芸教室を運営してもらい、自分たちで年に1回ほど、発表の場を設けている。そのような活動があちこちで生まれてくると思っている。

指定管理者がやっている事業の中から生まれているかというと、指定管理になってからまだ1期や2期目ぐらいでそこまでは育っていない。これからそのようなところも目指していくと良いと思っている。

(倉持議長)

講座をやることも大変な準備が必要だと思うが、そこから自立的に活動してもらうというと、サポートしてそこから徐々に自立活動へシフトしていくということは簡単ではなく、なかなか難しい。それでも継続的な学習をしていただくには大事なことだ。

(松山委員)

以前私が別の自治体で、まさにそのようなことを意図する講座を企画したところに関わらせてもらったが、やはりある程度、行政側、場を作る側が戦略的にそこはやっていく必

要もあり、伴走していくことはとても大事だと思った。あとはやってねと突き放してしまうと、なかなかそこが育たない。それこそ専門的な知識のある方がある程度伴走すると、やはりきっちり定着していくことがあるという実例を見てきたので、もしやるのであれば、指定管理の方にもそのあたりを伴走するなど意識していただかないと、多分うまくいかないだろう。期待しているだけでできることではないと思う。

(倉持議長)

そもそも講座の組み方から変わってくる。専門的なサポートが必要だ。以前文化祭の検討をしたが、あれなどは参加者も担い手も減ってきて、運営がなかなか難しいといった話だった。一方でスポーツの方は、組み替えてスポーツ大会にして、状況に合わせたとても良い転換をされたという事例だった。その辺りからも学びたい。

今年は2年目となり、参加者もたくさん集まったという話で、マラソン大会だったものを、段々人が集まらないということで組み替えて、スポーツ大会にしたという話だった。このような事例からも学んでいきたい。

初めての参加だが、大野委員の世代はどうか。地元で育って今は大学生になり、またこうやって委員なっているということで、私たちから見ると循環というか、学びを超えて地域に生かしてくれる若者はどう育っているのだろうと思うのだが、これから地域の講座や教育など、こうあつたら良いなといったものはあるか。

(大野委員)

地域でのお祭りやそのようなイベントなどは色々と参加した記憶がある。

(倉持議長)

例えば、清瀬で学校以外の活動として、どのようなものに参加したことがあるか。

(大野委員)

今もやっているが、自分はずっとボーイスカウトをやってきた。たくさんあった隊も段々と人が減り、今はもう清瀬に一つしかない。今はだいぶ参加している人は少ないが、習い事として、野外活動などをボーイスカウトでずっとやってきた。小学3年生の頃から中・高・大学生になっても続けている。高校生の頃は部活もあってなかなかやれなかつたが、大学生になってからは指導者として携わっている。

(倉持議長)

高校時代に一度離れたのに、大学生になってまた戻ってきたのはどうしてなのか。

(大野委員)

小学生の時にお世話になったということもあり、その恩返しの意味で指導者をやろうと思ったのも理由の一つだが、自分が小学生の時にキャンプやハイキングなど、大変良い経験をさせてもらった。学校以外の部分というところでは、その経験が大変大きかったと思っている。

(倉持議長)

大学生になると勉強やサークル、バイトなどと色々と忙しいと思うが、地域の活動に関わろうと思ったきっかけなどはあるのか。

(大野委員)

ボーイスカウトの経験以外にも、20歳のつどいなどの経験もそうだが、中学生の頃に大学生の年代の先輩たちの姿を見て、かっこいいと思っていたのも理由としてある。憧れもあり、自分が大きくなったらそのようなことをやりたいと思った。清瀬市に貢献している若者を幼いながら見ていたので、そのような憧れもあったと思う。

(倉持議長)

中学生の時に大学生と会う接点というのは、ボーイスカウトなどそのようなところで、少しお兄さんやお姉さんたちを見ていて、ああいうふうになりたい、かっこいいなどと思っていた。やはりモデルというか、そういう身近な異年齢の、少し年上の関係がとても大事だということだ。

(大野委員)

お祭りの時などに、自分が小学生や中学生の頃に清瀬高校の生徒がボランティアで自転車の整備やごみ拾いなどをやっていて、そのような姿を見て憧れはあったと思う。

(倉持議長)

主観で構わないのだが、そういうのは何がかっこいいのか。今思えば、どのような姿がかっこいいと思ったのか。ただそこにいるだけではかっこいいと思わないと思うので、どのような姿がかっこいいと思えたのか教えていただきたい。

(大野委員)

楽しそうに活発に活動するところがかっこいいと思った。

(倉持議長)

少し年上の人人が、そうやって何か楽しそうにお祭りのボランティアや下の子の世話をなどしているのが良いなと思ったということか。なるほど、リアリティがあり勉強になる。

そのような場を作り、そのような出会いをちゃんと作っておくと、何年後かに大野委員のように、また何かやろうというように思ってくれるということがある。それこそ大学生になって、例えば先ほど坂田教育長が、中学生の時に「また大学生になったら来てね」と言ったという話があったが、大人や少し年上の先輩から声をかけられたといったようなことはあるのか。例えば20歳のつどいなど。

(大野委員)

ある。自分は思いがけず中学生の時に坂田教育長にお会いして、20歳のつどいで再会して、そこから地域振興部の方や色々な方にご紹介いただき、ラジオなどにも出させていただいた。産業振興計画のようなものの策定委員などもやってくれないかというお声がけがあり、関わらせていただいた。もちろん知識も無いので大きく力にはなれないのだが、そのように参加することによって地域のことをより知ることができるので、私も楽しく関

わらせていただいた。

(倉持議長)

そこでまた色々な関係者をご紹介されたことが、様々な関心に繋がっている。

(大野委員)

それでもっと清瀬市の力になりたいというように、思いが掲き立てられた。

(倉持議長))

適切に声掛けをして、お誘いするのも大事だということだ。やってみたら相乗効果でまた何か力になりたいと思うかも知れない。

(大野委員)

私は来年の4月から就職で社会人となるが、何かそのような地域活動などは続けようと思っている。仕事の合間になるが、積極的に参加したいと思う。それは幼い頃から生まれも育ちもずっと清瀬だったので、清瀬への愛というのが一番大きな部分なのかと思う。

(倉持議長)

きっとこれは小学校・中学校で色々な地域調べ学習などをした学校教育の成果もあるだろうし、学校外の活動の成果もあり、両方の成果があるのだと思う。清瀬愛が溢れる若者が育っていて大変素晴らしいことだ。

(西田委員)

20歳のつどいで清瀬の野菜を花束にしてプレゼントした時に、大変盛り上がり、皆さん清瀬が好きなのだと実感した。皆さん喜ばれていて、清瀬愛が強いと感じた。清瀬の子どもたちは大事に育てられてきていると常々感じている。

(倉持議長)

それはきっと清瀬の野菜について子供の時に学んでいて、清瀬の野菜はこんなに良いものなのだと、誇れるものなのだと知っているから、また20歳のつどいでその野菜を見て、良いなとか、かっこいい、欲しいなとなるわけだ。

(西田委員)

給食も大事だ。清瀬の給食は自校式で美味しいというのは有名だ。20歳のつどいの時に給食の企画が併設されていた。

(大野委員)

本当に給食が美味しかったと思う。私は給食委員会だったのだが、給食の前に流れる放送で「今日のおかずは清瀬市の何処どこのお野菜です。」といったことを言っていたので、些細な事だが、そのようなこともちよつとしたきっかけになったのかも知れない。

(倉持議長)

多分それが当たり前で育って、高校生や大学生になった時に、あれは特別なことだったのだときっと気づく。それがまた誇りに思うというか、うちの地域は良い地域だったのだなと思う。食が身近なのだろう。

(松山委員)

今の話を聞いていて、改めて基本目標を見た時に「循環型社会」のその循環が、既存のものは成果というように言葉があるが、知識の循環をイメージして書かれているような気がした。今話を聞いていると、何か恩返しや憧れなど、むしろ出会いの循環というか、出会いの中で色々と生まれる感情が回っていくような、何かそのようなイメージも大事なのだろうということを思った。人が出会って、そこで何かしてあげたい、してもらった、お返ししたい、かっこいいな、楽しいな、など、そのような人の出会いが循環して、もっとしたい、もっとしたいとなっていくような循環という部分もあるのだろうと思う。むしろそれが結構大事だと感じた。そこに知識が乗つかっていくと、学びが更に膨らんでいき、成長していくという気がした。今お話しくださったこと、そこが上手くこの循環型社会の言葉の中に入ってくると良いと思う。

ところで質問なのだが、清瀬の給食は給食センターで作るのか、それとも自校式か。

(渋谷委員)

自校式だ。それは結構大きな意味を持つ。

(西田委員)

それのために所沢から引っ越してきたという世帯も何人か会った。

(松山委員)

全部の学校で自校式というのはとても大きな意味を持つと思う。やはり作っている方々が学校に居るというは大きな価値がある。

(倉持議長)

リアルに見ることができ、感じられる。しかも野菜は地元の野菜を使っている。

(西田委員)

匂いや五感で体感してくるから凄い。

(倉持議長)

それは子育ての魅力になっている。とても良い話を聞いた。

では、今日いただいた話をまた参考にしながら、今期のメインのテーマはいつまでに決めるのか。

(事務局)

今年度末までに決める。最後の会議が2月9日なので、2月9日で形になればと思ってい。今期の会議は残すところ12月と3月の2回なので、またメールなどでやり取りをさせていただくこともあるかと思うが、よろしくお願ひする。

(倉持議長)

上位計画を待っているとなかなか進まないが、前回の会議では、この施策の方針についてはあまり変えなくても良いというようなことを話した。施策の方向性などの具体的な内容まではまだ検討していないと思うので、その辺りを検討することになる。

(事務局)

少し補足として、先ほど倉持議長から話があったが、この方針の意義と必要性のところで、概念はこうだけれども、市としてはここまでを取り扱うということを謳っている市もあると伺った。

清瀬市の長期総合計画は、市全体の計画の中での生涯学習という位置付けになっているが、教育マスターplanでは教育委員会の中での生涯学習事業の扱いになり、そうすると、先ほど大野委員から色々とお話しいただいた郷土愛などに通じるところというのが、いわゆる博物館などで扱っているような市の歴史、伝統行事、文化財などが、今回この教育マスターplanからは外れてしまうので、この基本方針の範囲としては、やはり長期総合計画に合わせ、そこも含めた形で検討していけたら良いと考えている。

(倉持議長)

生涯学習基本計画方針というものが、教育委員会の内部だけのものではない。その生涯学習に関する事業については、市長部局や他の部局にも関わるようなものが入ってくるので、両方の計画が関係している。教育マスターplanも大事だが、そこの範疇だけではないということを意識しながら、できることは策定する。

(事務局)

現行の方針だと、6番の「清瀬らしさを活かした学びの活用と振興」というところが教育委員会だけにとどまらないものになってくると思っている。5番の「地域の連携」といったところも、恐らく全庁的なところに関わってくると思う。そこも踏まえながら考えていきたい。

(倉持議長)

次回12月の会議では、先ほどの長期総合計画と教育マスターplanの概要のようなものは確認できるのか。

(事務局)

確認できるはずだ。

(倉持議長)

それではそれも少し見ながら、先ほどの範囲範疇の関係もあるので、少し具体的にこの後半のところを検討できる。12月の会議は教育委員との懇談会があるので会議は少し短いが、次回は施策の方向性について検討できたらと思う。では議題2は以上とする。

それでは、議題3、令和7年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会表彰候補者の推薦について、事務局より説明をお願いする。

(事務局)

毎年行われている都市社連協の定期総会について、社会教育委員としてご活躍いただいた方を表彰する場がある。こちらは要件が色々とあるが、この度、退任された齊藤しのぶ委員が平成29年10月から長年お勤めいただき、委員の皆様からの賛同も得られたため、ここでご本人の了解が得られたらぜひ推薦させていただきたいと思っている。事務局からは以上となる。

(倉持議長)

それでは次第4、報告等。令和7年度東京都市市町村社会教育委員連絡協議会第4ブロック研修会については、10月31日に西東京市の市役所で開催され、玉置委員と私、事務局から古川副参事の三人で参加した。大変面白かったので、玉置委員からご報告をお願いしたい。

(玉置委員)

西東京市に下野谷遺跡という遺跡があり、こちらの基調講演「人と人との繋がりづくり」ということで、「ムラびと」という滝島さんという方と学芸員の亀田さんという方が講師をされた。このような縄文式の竪穴式住居がまだ伏見など色々な場所にあるらしく、西東京は遺跡の宝庫で、数ある中の下野谷遺跡についての基調講演だった。

第2部として「地域文化をきっかけとした地域のつながりづくり～各地域における取組からノウハウを考える～」をテーマに、5つのグループに分かれてディスカッションをして、その後に発表をするという形だった。発表の中では地域の繋がりづくりのポイントについてなどの議題で、どのようなことがあるかといったディスカッションがあったのだが、私のいたグループでは、どのような場所づくりや主体的にどうやっていくか、人に教えるとか体験をしていくことが繋がっていくということなのではないかということで、先ほど大野委員のボイスカウトの話も出ていたが、そのようなことを体験する、させてあげることが次に繋がっていくのではないかというような内容を話し合った。研修会全体の内容としては、ほぼ基調講演がメインだった。

(倉持議長)

学芸員と「ムラびと」というボランティアの方がいる。遺跡を一つの村と見立てて、村に村人として登録する。そこで縄文祭りをして、たくさん的人が集まって皆さんでも楽しそうな雰囲気なのだと。

(玉置委員)

下野谷遺跡のキャラクターを作り広めていく活動を、その「ムラびと」の娘さんがやっていた。その活動をお父さんが引き継いで、色々とやって広めていくという形になったようだ。

元々は子供の祭りのイベントがきっかけで、親が巻き込まれてどんどんはまっていったというような話だった。

(倉持議長)

お父さんの方が段々とはまっていき、色々と作ったりするようになり、今ではあのように講演でお話をするまでになった。

(玉置委員)

「しーた」と「のーや」というキャラクターを作つて色々と広めている。当日はそのキャラクターの色々な人形が並べてあった。全部市民のボランティアの方たちが考え、それらを広めていく活動をしている。

(事務局)

遺跡も国の史跡に指定されているので、遺跡の中の国宝のような位置付けの文化財になっている。

(倉持議長)

遺跡があるということだけではなく、その遺跡の活かし方、市民の巻き込み方というのがなかなか面白い。楽しい縄文祭りで活気づかせながら、歌も作っていると言っていた。そのような市民参画型のサークルのようにボランティアが活動している。その拠点は遺跡なので周りが野原なのだが、そこにw i – F i なども入れ、イベントをやって楽しく活動している。初めは娘さんがやっていた活動がきっかけなのだが、子供が小学校などに通っている時にお父さんが関わり始めているということだから、働き世代から始めもう何年も関わっている。

(玉置委員)

縄文祭りは、昔はスタッフの方が多いぐらいの参加数だったが、今では1400人以上が訪れ広く認知されている。もう20回継続しているそうだ。

(倉持議長)

素晴らしい。やはり聞いていると、学芸員とボランティアの「ムラびと」との関係が良い。掛け合いがとても面白くて、誘い方が上手い。職員の声のかけ方が上手くてやめられないというか、気づいたら何か楽しくやっているというような感じだそうだ。やはりそういう意味では、学芸員や社会教育主事だけではなく、人の巻き込み方もとても上手にされていると私は感じた。

(事務局)

学芸員が下野谷遺跡を担当されている中でこのような市民との繋がりがあり、ここまでやられていたということを初めて知った。グループディスカッションの中で、私のいたグループで話題となったのが、やはりこういった活動をやっていくためには、できる範囲で参加し、無理のない範囲で楽しくできるというところが大事だという話だった。ただ、一番初めの、その活動に取り組むためのきっかけを、例えば行政などが後押ししてあげたりするということは必要だという話もあった。今回この件については亀田さんが学芸員として、ずっと下野谷遺跡の保存だけではなく普及活動も担当されていて、その中で生まれた繋がりで滝島さんとやりとりをしていき、ここまで活動を発展させたので、今回は学芸員だったが、ハブとなる職員や社会教育主事といった方が、ある程度専門的な見地で市民に

アドバイスをしたり、繋がりづくりなどをサポートしたりしているから、ここまで発展できたのではないかというような話も出た。

(倉持議長)

私のいたグループも、小平市の統括コーディネーターと西東京市のコーディネーターがいた。他に福祉系のコーディネーターというか、まちづくり関係の業務をされている方がいて、団地などのまちづくりの話をしてくださった。文化協会の委員もいて、そこの文化協会はとても活発で、色々な市の事業を受託している。その分まわしていかなければならないというのもある中で、夏は体験活動のようなものを別の会の団体にやってもらい、それが結構な機動力になっているという話があった。

他には小平市だったか、放課後子供教室でよさこいをやっていて、年に1回の発表の場があるのだが、そのような発表の場があるというのにはやはり活動を活性化するという話や、よさこいの町のアナウンスをそれまで学校の先生にやってもらっていたが、先生がなかなか引き受けてくれなくなっていたところに、中学生がやってくれると言ったそうだ。小学生の時によさこいをやっていた子供たちで、その中学生が自らやりたいと言ってくれて、やりたいという気持ちを汲んでやってもらって良かったと。今は発表に向けて準備をしているという話だった。そこから何かやりたいという声が一つでも二つでも聞こえたら、それを実現するバックアップがあると、そこからこう動いていくのではないかというような話になり、やりたいという気持ちを大事にして、何かを実現するためのお手伝いができるということが大事なのではないかという話が私のいたグループであった。

私個人としては、西東京市の社会教育委員を担当している職員が、私の大学の卒業生なのだが、その方がその部署に入つてもう4、5年目なのだが、その日に色々と私に人を紹介してくれる。今度こういう人が社会教育主事になりましたとか、新しい後輩が入りましたなど、色々と紹介してくれるのだが、紹介する様子を見て、社会教育の職員として、とても力をつけてきているなと感じた。循環を外に広げよう、ネットワークをつなげよう、自分だけが繋がるのではなく、色々な委員や職員を人と繋ごうとしている様子を見て、このように社会教育は職員が動いてくれると横展開する、というのが私の成果だった。色々な授業や今後活用できそうなネットワークが私も得られて感激だった。

それでは、その他報告などはあるか。

(事務局)

都市社連協の交流大会についてだが、今回の第4ブロック研修会の実施報告も西東京市からされると思う。今皆様にメールで都市社連協の交流大会のご案内をさせていただいているが、もしご都合が合えばご出席いただければと思う。

(倉持議長)

その他、報告連絡等はあるか。

(事務局)

最後の資料をご覧いただきたい。児童青少年係で清瀬市青少年問題協議会による講演会がある。そちらで不登校支援に関する講演会を開催する。齊藤前副議長が青少協のお役で、この講演会のテーマ設定や講師の方など、倉持議長にもご協力いただいて企画をされてい

る。私たちが開催した不登校支援ネットワーク・フォーラムとの繋がりも含めて、こちらの講演会を設定しているので、もしご都合が合えば、ぜひご参加いただければと思う。ちなみに、講師の宮下先生は私たちの不登校支援ネットワーク・フォーラムにも参加してくださいました。

(倉持議長)

宮下先生は学内の他の先生からご紹介していただいたのだが、実践もされており勉強されているということで、しかも前回の不登校支援ネットワーク・フォーラムにも参加してくださっていて、ご準備もしてくださっているので、今回私たちのテーマとして社会教育委員で検討してきたテーマとも重なるので、ぜひ可能であればご参加いただくと良いと思う。

他に、西田委員からも東京都ヤングケアラー相談支援等補助事業「ヤングケアラーシンポジウム」のチラシのご紹介があるので、そちらもお読みいただきたい。

では、これで以上だが、次回の会議は前半に社会教育委員の会議をやり、後半は教育委員との懇談会を行う。

テーマは、私たちはこの提言まとめを作ったということで、それをご紹介することになっている。簡単に私が提言の中身を少し紹介するので、各委員からぜひご意見などをいたければと思う。よろしくお願ひしたい。

不登校支援ネットワーク・フォーラムには、教育委員の宮川職務代理がご出席いただきしており、ディスカッションにも参加していただいている。

それでは、令和7年度第4回清瀬市社会教育委員の会議は以上とする。